

派遣先所属 福島県企画調整部文化スポーツ局生涯学習課  
 氏 名 山崎 大智 (やまさき だいち)  
 派遣期間 令和元年4月1日～令和2年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県生涯学習課では、私を除いて福島県のプロパー職員であり、課長以下11名（うち1名が応援職員）の体制で業務を行っています。

福島県が経験した唯一無二の地震、津波及び原子力災害という複合災害の記録と記憶を後世に継承し、世界に発信する「東日本大震災・原子力災害伝承館」（以下「伝承館」という。）の整備に関する業務を行っています。

震災から8年以上経過し、震災の記憶の風化と震災関連史料の散逸が懸念されています。震災関連資料を収集・保管するための収蔵庫、震災とそれに伴う原子力災害での経験と教訓を広く発信するための展示や研修、研究機能をもった伝承館を2020年双葉町に開所する予定となっています。

その他、当課では、「震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（ジャーナリストスクール）」、県民カレッジ推進事業、ふくしま海洋科学館の管理等も行っ

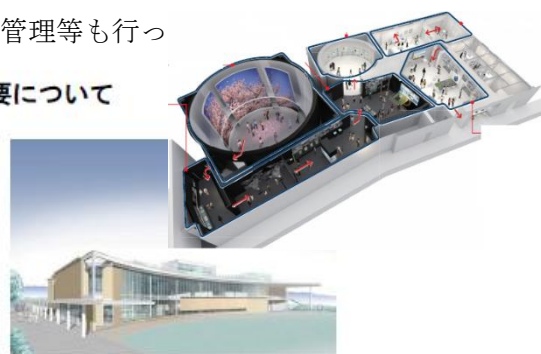
### 東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設の名称及び展示概要について

#### 1. 施設の名称

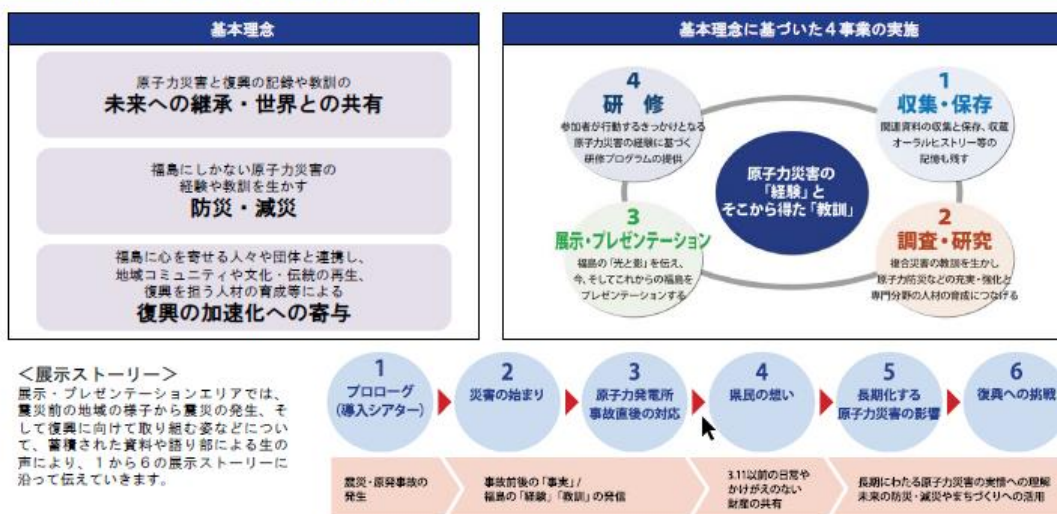
名称：『東日本大震災・原子力災害伝承館』

<名称選定の考え方>

- ・ 「未曾有の複合災害の記録と教訓を国や世代を超えて継承・発信する」という施設の事業目的を明確に示す名称であること。
- ・ 平易な日本語表記で、世代を問わず意味を理解しやすい名称であること。



#### 2. アーカイブ拠点施設の基本理念及び主要事業等（基本構想より抜粋）



現在の私の主な業務としては、伝承館に係る工事全般に関する業務、福島再生加速化交付金の予算管理、また、年度途中より伝承館の設立に向けて機運醸成するための震災パネル展の実施に関する事、ふくしま海洋科学館に係る工事に関する業務に携わっています。

具体的には、工事の契約関係や伝承館内の設備等について設計者をはじめ関係各所と協議し、整備を進めており、同時並行で施設内のレイアウトやそれに伴う備品購入を行っています。

震災パネル展は東日本大震災の記憶の風化を防止し次世代に伝えるため、県内8箇所で開催しています。

ふくしま海洋科学館は年間来館者数が56万人に上る人気水族館であり、令和2年度で開館20周年を迎えます。私は、施設内における維持修繕工事の発注事務に係る種々の手続を行っています。

## 2 被災地の復旧・復興状況

東日本大震災から8年以上が過ぎ、私が普段生活をしている、中通りの福島市では震災や津波の被害を感じることはほとんどなく、福島駅周辺では定期的にイベントが行われており、活気に満ちています。

地震や津波で甚大な被害を受けた浜通りでも復旧作業は行っていますが、まだまだ時間が必要だと感じました。私は、毎月1回、伝承館の定例会議のため双葉郡双葉町に出張していますが、初めて出張した時は衝撃で言葉が出ませんでした。道路はほとんど復興復旧関連のトラックが走っており、住宅はバリケードで物理的な防護措置がされ、外観は結婚式場やスーパーだが実際に利用しているのは建設業者であるなど、同じ福島県でも中通りと浜通りでは被害状況が違う分、復旧状況も異なっていました。

しかし、現在国家プロジェクトとして震災、原発事故によって失われた浜通り地域等の産業・雇用を回復するため、福島イノベーション・コースト構想が進んでいます。研究開発、エネルギー関連産業の集積、先端技術を活用した農林水産業の再生、未来を担う人材の育成強化などを通じて新たな産業・雇用を創出し、住民が安心して帰還し、働けるよう、浜通り地域等の再生に取り組むものです。令和2年春には特定復興再生拠点区域の一部地域（双葉駅・大野駅・夜ノ森駅等）の先行解除、双葉町の避難指示解除準備区域の解除を予定しており、少しずつではありますが着々と進んでいます。

## 3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県は温泉が非常に多いです。福島市から車で約30分近く走ると土湯温泉、飯坂温泉、高湯温泉など様々な温泉があり、温泉好きな私からすると最高な場所です。休日は毎週のように疲れを癒やして様々な温泉を巡っています。

また、福島県は全国で3番目に面積が広く、車社会であり、車がないと不便な部分もありますが、車があれば、福島県内の観光施設や郷土料理を堪能することができます。

以下休日に訪れた場所等



エメラルドグリーン湖（五色沼）



東北絆まつり 2019 福島



喜多方ラーメン（はせ川）



紅葉（福島市）



足湯隊（南相馬市）